



『原教界』の日本語目次翻訳にかかわって
 The Job to Translate Aboriginal Education World's Table of
 Contents into Japanese
 文—石村明子（政治大學民族學系碩士）

《原教界》目録日語翻譯的工作

編輯團隊與其他協助 ▼

原教界 出版10周年にあたり、日本語の目次翻訳者として何か書かないかというお誘いを受けた。もうそんなに経つのか、と改めて思った。目次の翻訳は第8期（2006年）から始めたので、関わるようになって8年半ほど経つが、今振り返るとあつという間だった。かかわった当初は修士課程の3年目になった頃だったが、今はすでに日本に帰国して4年近く経つ。

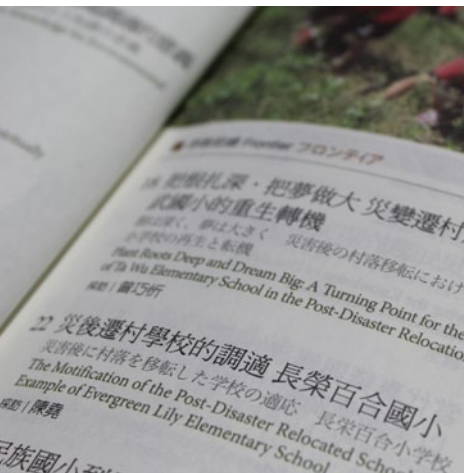
翻訳における試練

霧8年以上、ほぼ月2回のペースで翻訳をして思うことだが、目次の翻訳は簡単そうに見えるが実はそうでもない。というのは、一つの言葉に対していくつもの訳語が対応するからで、その中から適切なものを選ばなければならず、別なものを選ぶと文章とかみ合わなくなってしまうこともあるからだ。文章を読んでから翻訳するほうが理想的なのかもしれないが、編集の手順上そうはいかない。また、翻訳者の中国語の

原教界 創刊10年了，妳做目錄的日語翻譯這麼長一段時間，要不要寫關於翻譯的文章？——聽了這句話，我才發現時間已經過了那麼久了。其實，我開始為《原教界》進行翻譯的工作是2006年第8期，算一算已有8年半的時間，現在回顧起來真是光陰似箭，我接下翻譯目錄的工作時，才剛上碩士班3年級，現在我已經回到日本將近4年了，一轉眼就過了8年多。

翻譯工作的挑戰

在這8年多的時間裡，每兩個月一次的翻譯目次，看起來很簡單，但其實並非如此。要翻譯一個詞，對照的詞彙不只一個，翻譯時選擇的譯詞不對，就會讓翻出來的標題跟文章內容



翻譯的工作並不簡單，雙語詞彙需要仔細對照，一旦選擇的譯詞不對，就會讓翻出來的標題跟文章內容不相符。（圖片提供 編輯部）

2007年12月號18期「愛努的民族發展」整本內容的中日雙語對照由石村明子負責校對。（圖片提供 編輯部）

能力不足で原文の意味が把握できなくても、『原教界』の担当アシスタントの皆さんが必ず助けてくれるので助かっている。

ところでこの間、目次のほかに投稿や翻訳もさせていただいた。個人的に印象深かったのは、「部落」という言葉について投稿をさせてもらった第10期（2006年8月）「部落・学習・

對我來說，撰寫或校對譯文的工作太重了，但我想讀者或許對這些內容也有很深刻的印象，例如「部落」之詞語，對各家族語來說意涵深遠；編輯北海道原住民族之愛努族專刊也是嶄新的挑戰，我認為這種專刊在國內很少看到。



不相合。讀好文章再翻譯也許是最理想的方式，不過考慮到雜誌編輯的步驟，這幾乎是不可能的事。有時則因譯者漢語能力不足，導致掌握不好原文的意思，但《原教界》編輯助理們總是幫我忙，真感謝他們。

在這段時間，除了目次翻譯之外，我甚至投稿兼翻譯文章。個人印象最深刻的是，我曾在第10期（2006年8月）「部落・學習・競爭力」的「原語論壇」專欄投稿，探討「部落」一詞。另外，第18期（2007年12月）「愛努的民族發展」的整本中日雙語對照由我負責。老實說，印象深刻的第一個原因是，特別是對我來說，撰寫或校對譯文的工作太重了，但我想讀者或許對這些內容也有很深刻的印象，例如「部落」之詞語，對各家族語來說意涵深遠；編輯北海道原住民族之愛努族專刊也是嶄新的挑戰，我認為這種專刊在國內很少看到。

競爭力」の「原語論壇」、そして翻訳の総チェックをした完全対訳の第18期（2007年12月）

「アイヌの民族發展」である。印象深かった原因が、書いたり訳チェックをするのが大変だったというのが本音ではあるが、中国語の「部落」に対応するそれぞれの民族の言葉やその意義の豊富さ、および北海道の先住民族アイヌについての特集という、おそらく台湾ではほとんど見られない画期的な試みは、読者の皆さんにも印象深かったのではないかと思う。

原住民族教育は文化發展の基礎

「百年樹人」という言葉がある。『原教界』がテーマとしている教育は時間も手間もかかるものだが、全ての基礎だといっても過言ではないだろう。民族文化のななめともいえる言語教育、そして幼児教育、高等教育、さらにはITを利用した教育、音楽や舞踊、観光など、いつも多岐にわたる話題に感心し、興味をそそられた目次を翻訳している。

原住民族教育為文化發展的基礎

有句話說「百年樹人」，教育雖然需要很長時間，要花很多心思，但卻是一切的基礎。《原教界》以此為主題，提及語言教育是民族文化的關鍵，除此之外，還以幼兒教育、高等教育為主題，甚至觸及e化教育、樂舞、觀光等；我每次翻譯時都覺得探討的議題如此廣泛，令人佩服，讓人不得不產生興趣。◆



石村明子

日本北海道札幌人，1970年生。大學畢業後赴中國開始學習漢語，1999年來台灣開始教日語，之後在私人行號擔任日語秘書。因從小對異文化有興趣，從2004年起在政大民族學系碩士班就讀，

2010年畢業後回札幌至今。目前在札幌從事中日語口、筆譯工作。

